



皆さんこんにちは。情報メディア委員会の担当するコラムとして、会員の皆さんに何かご提供できるものを

一生懸命掲載して行きますので最後までお付き合いの程よろしくお願いします。

(と言っても、かたっ苦しいのは無しです。)

第一回目の今回は、日頃感じていることを取り上げたいと思います。

「ハッカー」と「クラッカー」

皆さん、マスコミの報道や何かで良く「ハッカー」と言う言葉を耳にされる(または目にされる)と思います。「ハッカー」を通常はインターネット上で何か犯罪行為を行うものとして扱っているのがほとんどだと思えますが、本来はそう言う悪い連中は「クラッカー」または「アタッカー(攻撃者)」、「イントルーダー(侵入者)」と呼ばれます。

「ハッカー」はコンピューターの世界では達人の域に達した人達を指して尊敬の念を込めて呼ぶ呼称です。「ハッカー」は社会に貢献する人達なのです。その一例が、今後拡大するであろうオープンライセンスの潮流を作った「LINUX」です。世界中の「ハッカー」によって無償奉仕で開発されているのがこうしたオープンライセンスのOSやソフトウェアなのです。彼らの貢献無くしては、これらの技術進歩も無かったでしょう。尤も、こうしたことが可能となった基盤技術である「インターネット」そのものも、彼らの貢献があればここまでになったと言えるでしょう。

これに対し、ネット上で私的な欲求によりさまざまな犯罪行為を行う連中は、絶対に許されるものではありません。こうした悪質な連中と「ハッカー」とは明確に区別されなければなりません。これからは皆さん、是非「ハッカー」と「クラッカー」をごっちゃにしないようにご注意ください。

今回は「IT用語集①」をお送りします。拙文に最後までお付き合い頂きありがとうございました。それでは、さようなら。

(情報メディア委員会 長谷川一成)

コピーをして名簿にお貼り下さい

(newカマーズ)



かど わき こう いち
門 脇 幸 一 B型
ホテルサンルート米子
営業課 係長
〒683-0805 米子市西福原1-1-55
TEL 33-0911 FAX 32-5847
(KT) 090-7504-2282 (EM) kdwi@d4.dion.ne.jp
〈自宅〉米子市両三柳1676-1
〒683-0853 S39.6.20 TEL24-5494

〈コメント〉

私が西部青年中央会に入会させていただいたのは、今回卒会された山川廣美先輩の会社の後継として、会社から指名されたようなもので、実は自発的に願っていたという事ではなかったのです。が、野球にたとえるなら、せっかく代打で監督から送り込まれたこの打席に、打てるかどうか解りませんでは情けない。とりあえず打てる球なら、積極的にシングルしよう!という心境です。会員の皆様、このバッターが出塁できるよう祈り下さい。

(newカマーズ)



つのだ とし ひと
角 田 敏 人 B型
(前)シンコーポレーション
総務部長
〒684-0072 境港市渡町615-1
TEL 45-1112 FAX 45-1113
(KT) 090-2000-7513 (EM) tspd6009@mb.infoweb.ne.jp
〈自宅〉米子市安倍383-4
〒683-0846 S44.7.4 TEL29-2846

〈コメント〉

はじめまして。この度入会しましたシンコーポレーションの角田敏人です。会社の方は、鉄筋工事業と輸入業を主として行っております。高校時代からやっているハンドボールと三年間の鉄筋工事の現場作業で、体力だけは人並以上と思います。31歳という若輩者で、右も左も分からない新入会員ですが、いろいろな面で今後、皆様と共有するものが出来るよう頑張りますので、宜しくお願い致します。

9月例会案内

と き 平成12年9月18日(月) 18:30~
と ころ 米子国際ホテル
講 師 赤崎高等学校 教諭 高塚 人志氏
演 題 「いのち一番・お金は二の次」
担 当 広報委員会

9月役員会報告

9月定例役員会が平成12年9月1日(金)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 9、10月例会開催の件
- (2) 中小企業全国大会参加の件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

聞いてごしない Part 14

今日は終戦記念日である。皆さん平和ボケして戦争の経験はなし。現実と過去のギャップがありすぎる。

戦後と言えば、ベトナム戦争と思い違いをしたり、日本が戦争をしたことさえ、うっかりすると忘れてしまいかねない。

お盆や、お彼岸に御墓参りし、祖先の霊を慰めては…。私は日本人の礼儀がここにあると思います。

青年中央会に入り私は少し大人になったかも。毎日、仕事ばかりに気を取られ、時間が過ぎるのが早い、自分の時間がほしい。しかし、今われわれが生きているということは、多くの祖先先輩のお陰です。

経済も産業も、自然も残すことは大切ですが…。精神的遺産を残すことも大切です。

(志と実学)

編集後記

「やってみな、わからんわい!」

結果の良し悪しを気にする余り、何も出来ない日々が、過ぎて行く。それならやってみた方が、まだ良いと思う。

何が良し悪しを決めるのか、やってみないとわからない。そんな今日の様な気がします。

私の場合「失敗したなあ」と思う自分の中に、失敗した事で、新しく余裕が生まれました。なんだか成功するより勉強になった気がします。

「失敗は成功のもと」が本当だとすると、私は成功するはずですが…。



発行人:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷社

新OB会長挨拶

岡田 端 (第8代会長・第11期卒)



松田、手島、鶴田三氏に続いて、OB会長職を勤めることになりました。現役時代と同じく木山さんが事務局長役を引き受けてくれるというので、副会長も留任をお願いしスタートすることになりました。OB会も私自身、卒会後何回かは出席した記憶がありますが、最近では御無沙汰続き、浦島太郎的会長で申しわけなく思いますが、任命された前会長の責任ですのでしばらくご辛抱願います。

さて最近の景況を皆さんどう見ておられますか。IT革命といわれます。ほぼ60歳の私でも携帯電話をもち、この原稿もワープロで打っています。しかしかつて自動車が個人レベルに、どんどん普及していった時代、住宅が次々に建っていた時代のエネルギーとはどうも違うように思えるのです。

考えてみると、かつてはインフレの時代、今はデフレ。少子高齢化で今のOB会員の人口帯が一番多いと言う。従って従来の発想では将来を見通せない、だから何となく不安な時代が今と言えるのではないのでしょうか。

中央会現役の皆さんに希みたいのは、もっと、もっと中央会そのものを活用することです。国の中小企業施策を具体的に実践していく組織ですし、変化の時代、色々な仕組み、制度が発見出来ると思えます。

OB会と言うのは、あくまでOB会で親睦を中心に現役当時の人の交流を大事にする会でありたいと思います。先日の総会で懐かしい顔に出会いました。一方現役の皆さんはもちろん、最近のOB会入会の皆さんはほとんど解りません。しかし年代も違う訳ですし、それぞれの現役時代を懐かしみ、気のおけない交流を楽しめれば、と思っております。

委員会報告掲載の趣旨について

広報委員長 足立 徹

今年度の委員会活動は全体テーマである「志と実学」のもと、それぞれの委員会が独自の活動テーマをもって、1年間研修に取り組んでいます。周知の通り委員会活動は中央会活動における根幹であります。本年度のハンサムにおける委員会報告は単なる研修報告にとどめず、研修方針、活動内容をできるだけ、わかりやすく詳細に掲載し、皆様に共通認識して頂く事にしました。それぞれの委員会のみならず、委員会活動とおして「志と実学」の認識と、更なる中央会の活動意識の向上につながればと考えています。

何卒、ご理解頂きまして、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

8 月度委員会報告

実学委員会

実学委員会は経営者として必要な資質（経営判断を養う目）を学んでいる。1 回目の 8 月委員会は税理士の田中委員長による「経営者として知っておきたい会計実務」の講義を受けた。内容は現代日本経営者のリーダーである京セラ名誉会長稲盛氏の会計思想の紹介と実務編として損益計算書からわかる経営指標についてであった。

○「京セラ会計思想の原点」について

- ① 経理を知らないものは真の経営者にはなれない
- ② 決算書は経営者の成績表である 数字の奥にあるドラマを読み
直接目の届かない部門や支店の様子を月次の報告書から読み取れるようにしなければならない。細かな経費の増減も見落とさず、要因をきちんと把握しなければならない。
- ③ 機械設備は中古品を工夫して使う
設備投資は費用対効果をよく考え、数字で掴んでから判断せよ。「欲しいのか必要なのか」よく考えよ。華やかな営業車、使いこなせぬ最新パソコン、などなど。
- ④ 当座買入はコストを安くする
まとめ買入はひとつ当りのコストは安いが無駄に使えば同じこと。原料など倉庫賃や在庫金利など余計なものがかかり過ぎる。
- ⑤ 固定費の増大を徹底的に警戒する
人件費は固定費の重要科目である。バブル期の過剰人員と過剰設備が現在の経営を圧迫している企業は多い。もう一度適材配所を考えよ。

○「財務諸表（損益計算書・貸借対照表・財務分析指標）の見方」

- ① 損益分岐点（利益の分かれ目、将来の採算性を見る指標）
限界利益（±0＝売上－変動費）

$$\text{限界利益率} = \frac{\text{限界利益}}{\text{売上}} \quad \text{損益分岐点売上高} = \frac{\text{固定費}}{\text{限界利益率}}$$

$$\text{限界利益（売上－変動費）} = N（\text{利益率}） \times P（\text{単価}） \times Q（\text{数量}） \geq F（\text{固定費}）$$

② 財務分析指標表

$$\text{売上高対経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{売上（目標 3\% \sim 10\% 以上）}$$

参考文献

稲盛和夫の実学—経営と会計（日経 ¥1,200） 季刊誌盛和塾「塾長講話」

政治・地域ビジョン委員会

平成12年8月9日（水） 於：ホールサムインかいけ 出席者／13名
11月の青経連のテーマが「地域合併」についてであり、当委員会では湯原会員を招いて「国と県の交付金制度の現状と今後の方針」について学んだ。

- ① 政府の要望としては、交付金・補助金制度を撤廃したいという考えの下で、国の持つ権限・財源を地方・地域に、そして民間・市場に任せられるものは任せていく。
- ② 鳥取県では、今年急ピッチで以上の事で合併推進をしていく事で郡・市・町・村単位で、ヒアリングを開始し、県民は合併推進の意味を理解してもらうとともに、各地域住民の声を出来るだけ吸収して良い対策を講じたいとの意向でした。

以上の事を中心に現状の県政の状態と今後の課題点を聞きました。

総務委員会

平成12年8月7日（月） 於：大連 出席者／13名

1. 鳥取県中小企業青年中央会親睦ソフトボール大会
2. 通常総会懇親会の反省
 - ・自分の役割担当以外に何をすべきか分からなかった。
 - ・連携がうまく行って無かった。
 - ・もっと細かく役割を決めておくべきだった。

等の反省が多く、事前の打ち合わせが不十分で、もう一回打ち合わせをしておくべきだった事と、当日の打ち合わせが必要だったとの意見に集約された。それから、総務委員会は縁の下の力持ちに徹する委員会である事も肝に銘じた。北野副会長から全体的には良く頑張ったのではないかと、今回の反省点を踏まえ、これからの行事に取り組んで行って頂きたいとの総評を頂いた。

志委員会

平成12年8月7日（月） 於：夢みさとタワー2F第1会議室 出席者／13名

湯原会員をアドバイザーに当委員会のテーマの第一歩を明治の有志達におき、「司馬遼太郎の魂」の本のある一説から、「質実さ」「節度」「ものを冷静に見る認識力」「公的なものへの謙虚さ」「自助の心」など「志」を基本とし現在の日本国のあり方を、時代比較しながら委員長のリードのもと、湯原会員に我々の住む街の現状を会員全員で、直すべきことを意見交換した。

また、副会長の会社設立までの足跡を伺い、リーダーとしての考えを学ぶ。

情報メディア委員会

平成12年8月9日（水） 於：日本情報ビジネス専門学校 出席者／13名

今委員会はIT社会に必須となるであろう電子メールとインターネットについて学んだ。久野会員を講師に実際パソコンに触れながらオープン委員会として開催した。

電子メールの特徴は、名前からも分かるように手紙のことであるが普通の手紙とは違い、相手に届くまでの時間がほとんどかからないことだ。これによって、例えばビジネスに関する書類なども時間をかけずに電話のようにお互いの都合を気にすることなくやり取りでき、情報社会の中でも重要な役割を担っていくだろう。

インターネットがIT社会で果たす役割は、世界各地と双方で通信できるわけで、距離と時間の制約が、電子メール同様事実上なくなる。これによって、個人でも高度な情報を作成・発信することが出来、様々な社会的活動、経済活動が可能となる。例えば、BtoC（企業から消費者）・BtoB（企業同士）で大いに貢献している。初心者として電子メール・インターネット参加の6名を加え、IT社会への門戸が今開かれたのである。次回は、長谷川会員による「インターネット操作の復習とEビジネス活用事例紹介」である。

21地球委員会

平成12年8月12日（土） 於：国立公園大山 出席者／9名

今回の委員会は「崩落・土砂流出の進む大山と一木一石運動について考える」というテーマの下、頂上付近の現状を視察することとなった。

委員会メンバー一行は6時30分に駐車場を出発し、9時に頂上に到着。頂上保全の一助となればと運び上げてきた石を山小屋前の石置き場に並べ、10時に下山を始め、12時過ぎにキャンプ場着、散会となった。

一木一石運動は、大山という環境財産保護の啓蒙活動としては有益な手段のひとつかもしれない。しかし、我々ひとりひとりももっと積極的に、もっと能動的に、山の意味・自然の意味——石コロ1個、雑草1本が植物生態系に果たす役割の大きさ——を深く理解し、その規制を守り、マナーアップに努めることにより、「観光と環境保全の両立」といった一聞しただけでは矛盾するテーマを成り立たせることができると信じるものである。



8月例会報告

平成12年8月18日ホテルサンルート米子に於いて8月例会が行われた。

綱領唱和の後土井会長が挨拶され、いよいよ本年度が始まり全委員会を廻り感じたことは、新しい挑戦そしてほとんどの委員会は全員出席で、初顔合わせで、やはり物事には勢いというもの大切だ。まずは勢いで半年を走りたいたいといわれた。

又、会長資料が配布され「志と実学」「社長とは経営をする人である」①我が社はどんな事業を行うか、②その事業構造の規模をどうするか、③社長の処遇はどうなるのか、の3つが基本となる。

私たちがこれからどうなるのかわからない時代をむかえ、勇気を失っているのが現実である。本年は1年間勉強を通して企業人の自信を取り戻せ。社長も勇気を持って。1年間勉強してそういう事の出来る企業人が一人でも育てば幸せだと言われた。

引き続き新入会員2名にバッジの授与が行われた。

その後、今回初めての委員長タイムとなり情報メディア委員会の田中委員長よりIT革命についてITをうまく活用している2社を紹介された。

演題：【放送・通信融合の21世紀】

講師：株式会社山陰放送 代表取締役社長 松田好哉氏

まずは本会のテーマである志が目に入り、演題を志と21世紀・放送通信、パソコンの融合とテーマを変えられ講演された。

この21世紀に本格的に訪れるIT革命、放送通信、パソコン、インターネットそれらの融合革命の時代を乗り切るためには、情報が大切な要素であろう。革命というものは一一人一人が主役で、その条件として①トラブル解決能力があること、トラブルに正面から当たる人。②如何に行くべきか。如何に死ぬべきか。その人生をもって人の2つを挙げられた。日本の戦後55年は生活向上をめざしてきた。「人生」とは個人の文化的集積である。「知識より知恵のほうが大切である」「如何に生きるか、如何なる志をもつべきか」。それが最大の課題それを解決する為に我々は生きている。よくよく胸に刻んで頂きたいと、言われた。



広報委員会

平成12年8月2日（水） 於：米子食品会館 出席者／13名

1. 9月担当例会開催について
2. ハンサム紙面割および内容について

ハンサムの紙面割および掲載内容を委員会3チームに分けたうちのAチームより提案があった。それについて委員長以下各委員により意見を出しあい、新しいハンサム作りがスタートした。

まず第一に考えたのは、会長より指示の合った“実のある委員会報告”をどのように紙面上で表現するかについて討議した。その後今までの紙面に載せていた各記事についても再検討を行い、今回のハンサムの紙面割および内容となった。

これは今後、会長以下各会員より意見を頂きより一層充実したものを作っていくという事で今日の委員会を締めくくった。

まずは紙面を見ての活発な御意見を広報委員会までお願いします。

newカマーズ委員会

平成12年8月7日（月） 於：米子食品会館 出席者／14名（中島委員長）

○中央会の歴史…中央会の成りたちについて

- ・青年中央会結成の親会の呼びかけに対し最も早く行動を起こしたのは西部であり、県青中をリードしている。
- ・全国的に見ると、鳥取県の県青中は活動が活発である。

(安部監事)

○私と中央会…自らの新人会員時～現在までの活動を振り返っての話

「入会当初は疑問とか面白くないことがあるとは思いますが、積極的に参加していくことにより、中央会がどの様なものかが理解でき、その交流は自らの血肉となっていく」



「第6回オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本」が20日、岸本町大原の町総合スポーツ公園で開かれ、チビッコアスリートたちが泳ぎ、漕ぎ、走るという鉄人レースに挑んだ。今年は総勢257人が出場し、県外からも41人の参加があった。A、B、C、Dと4クラスにわかれてスタートし、熱戦を繰り広げる姿は真剣そのものだ。コース沿道では、「ファイト～!」「がんばってえ～」と声援を飛ばし、選手と一緒に伴走する家族の方も選手以上に真剣な眼差しだった。その声援を受け、自分の力で完走してスタッフから頭から水をかけてもらい、完走メダルをもらおうと苦痛に耐え歪んでいた顔からは満面の笑顔が。がんばった彼らの証だ。おつかれさま。そして、30度を超す猛暑の中朝早く集まったボランティアされた会員の方、OBの方おつかれさまでした。

